平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	西洋経済史 (Economic History of Europe and America)			授業コード	E028051
担当教員名	古川　順一			科目ナンバリングコード	E10406
配当学年	1	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	4		
履修上の注意または履修条件	高校の社会科の授業から、大学の専門の講義への橋渡しをする教養を身につけてもらいますので、できる限り受講してください。また、社会人として必要な、教養も身につけられます。				
受講心得	ノートを持参すること。3分の2以上出席すること。また、課題や中間レポートを提出すること。以上の点を守ってください。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	『エレメンタル　西洋経済史』(英創社)楠井・馬場・山本共著 『イギリス哲学・思想史事典』(研究社)日本イギリス哲学会編(電子版あり)				
関連科目	経済学史				

授業の目的	さまざまな人々の経済活動の仕方から、私たちが生きていく土台となるもののヒントを学びます。西洋諸国の歴史を比較しながら、考えます。西欧の近代史の理解も深めます。また、経済史を通して、経済学の専門的な勉強につなげます。どの地域でどのような仕事をする際にも必要な、普遍的視点を身に着けてもらうことを目標としています。
授業の概要	まず最初に、一見うまく行っているように見えたが、実は大きな間違いを犯していた国々を取り上げます。イタリア、ポルトガル、スペインです。次に、その間違いに少しは気づいたものの、やはり一見うまく行くように見える方法に目を奪われて、大切なものを最後には見失ってしまった国を取り上げます。オランダです。最後に、最初はこれらの国々と同じように、大きな間違いを犯していたが、その間違いに気づかされ、真の幸いを見いだした国、イギリスとアメリカを取り上げます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : ○第1回　イントロダクション 講義の全体の授業計画、受講心得、評価基準等について説明します。	
第 2 週 : ○第2回　経済史とは 西洋の経済の歴史から、いったいどんなことが学べるか、考えます。また、この歴史から、現代に生きる私たちは、どんな生きるヒントが学べるか、についても考えます。	
第 3 週 : ○第3回　大航海時代(1) 　　ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、中世のイタリア商人の活躍と、オスマン・トルコの進出による衰退の様子を、見ていきます。	
第 4 週 : ○第4回　大航海時代(2) 　　ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、イタリア商人に代わって、ポルトガルが、喜望峰経由で、東方貿易に乗り出す様子を、見ていきます。	
第 5 週 :	

○第5回　大航海時代（3） 　ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、スペインが、「新大陸」貿易を開始し、ヨーロッパに「価格革命」が起こる様子を見ていきます。	
第 6 週： ○第6回　大航海時代（4） 　ヨーロッパの世界進出とその意義について考察します。 今回は、スペイン帝国の衰退の原因について、考えます。また、ポルトガルとスペインの経済発展・衰退の共通点について考えます。	小テスト① 大航海時代について、復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。

第 7 週： 〇第7回　貿易国家の盛衰（1） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダとイギリスが登場してくる様子について考察します。	
第 8 週： 〇第8回　貿易国家の盛衰（2） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダの中継貿易の興隆の原因について探ります。	
第 9 週： 〇第9回　貿易国家の盛衰（3） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダの衰退の原因について、とくに国民経済のあり方、経済の担い手から、探ります。	
第10週： 〇第10回　貿易国家の盛衰（4） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、オランダに代わって、イギリスが、世界市場を制覇した理由を、国民経済のあり方から、探ります。	
第11週： 〇第11回　貿易国家の盛衰（5） 次々と世界を支配する貿易国家が入れ替わり、台頭してくる様子を見ていきます。 今回は、スペインとオランダとイギリスの経済構造の共通点と相違点を、思想的背景から考えます。	小テスト② 貿易国家の盛衰について、復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。
第12週： 〇第12回　中世の農村と都市（1） イングランドの先進地域であった東南部と西ヨーロッパに共通の経済構造を探ります。 今回は、ヨーロッパ、とくにイギリスの農村の構造を考え、そこからイギリスが経済発展した原因を、探ります。	**中間レポート課題掲示** 大航海時代、貿易国家の盛衰について、記述式で課題を出します。400字×2～3枚でまとめてもらいます。採点ご希望者には得点を教えます(復習3h)。
第13週： 〇第13回　中世の農村と都市（2） イングランドの先進地域であった東南部と西ヨーロッパに共通の経済構造を探ります。 今回は、ヨーロッパ中世の都市と荘園制度の発展と衰退について考えます。	
第14週： 〇第14回　イギリス近代の農業革命と農村工業（1） イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリスの農村部で、市場経済が発展していく様子を考えます。	
第15週： 〇第15回　イギリス近代の農業革命と農村工業（2） イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリスの農村の中から、農村工業、とくに毛織物工業が発展していく様子を、見ていきます。局地的市場圏から、地域的市場圏、さらにバランスの取れた国民経済が発展していく様子を見ていきます。	アンケート① 前半の講義の振り返りを記述式で行います。時間を取り、講義の最後に提出してもらいます。採点が終わり次第、講義中にコメントをするとともに、返却します（復習1h）。
第16週：	

○第16回　イギリス近代の農業革命と農村工業（3） 　　イングランドの後進地域であった北西部で、農村工業と市場が発展していった様子を見ていきます。 今回は、イギリス農村経営の革新の様子と、その基盤の上に、農村部で新産業が発展する様子を、見ます。	
第17週： ○第17回　絶対王制と市民革命（1） 　　イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリスの絶対王制が、どのような経済政策を採ったか考えます。また、その厳しい抑圧の中で、イギリスの国内市場がいかに成長していったかを見ます。	
第18週： ○第18回　絶対王制と市民革命（2） 　　イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、絶対雄ぷ性の財政危機について考えます。	
第19週： ○第19回　絶対王制と市民革命（3） 　　イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリスの市民革命が起こった原因とその意義を、とくに経済史的観点から、考えます。またその思想背景についても考えます。	
第20週： ○第20回　絶対王制と市民革命（4） 　　イギリスで新しく発展していった農村工業が対抗する中で、市民革命に繋がり、新しく発展した市場が制度的にも確立していった様子を探ります。 今回は、イギリス革命の対立図式について考えます。また、イギリス革命とフランス革命とを、比較します。	小テスト③ イギリス市民革命について、復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。

第21週： 〇第21回　近代資本主義と宗教（1）イギリスで新しく発展していった農村工業、市場の原動力となった宗教改革の意義について考えます。 西欧諸国、とくにイギリスやアメリカが、経済発展した理由を、宗教との関係から考察します。　　今回は。とくにルターの宗教改革について考察します。	**中間レポート提出締切予定日**
第22週： 〇第22回　近代資本主義と宗教（2） 　　イギリスで新しく発展していった農村工業、市場の原動力となった宗教改革の意義について考えます。 資本主義の成立に果たした、宗教改革の意義について考えます。ここから、私たちが生きるヒントも、考えたいと思います。 　　今回は、とくにカルヴァンの宗教改革について考察します。	小テスト④ 宗教改革の意義について復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。
第23週： 〇第23回　イギリス重商主義（1） 　　イギリス市民革命の成果の上に、名誉革命後のイギリスがどのような経済政策を展開したかを考察します。 今回は、名誉革命後のイギリス議会が、どのような経済政策を採り、国内産業を育成していったかを考えます。	**ノート提出予定日** 今までのノートを提出してもらい、講義をよく理解できているか確認します。採点が終わり次第返却します(復習3h)。
第24週： 〇第24回　イギリス重商主義（2） 　　イギリス市民革命の成果の上に、名誉革命後のイギリスがどのような経済政策を展開したかを考察します。 今回は、イギリス議会の、貿易や植民地政策について考えます。	
第25週： 〇第25回　新大陸の経済（1） 　　市民革命の成果が北部アメリカのニューイングランドでどのように受け継がれていったかを考察します。 今回は、南北アメリカを比較しながら、アメリカ合衆国が、経済発展していった理由を考えます。	
第26週： 〇第26回　新大陸の経済（2） 　　市民革命の成果が北部アメリカのニューイングランドでどのように受け継がれていったかを考察します。 今回は、アメリカ合衆国に入植したピューリタンの生活の様子について考えます。また、合衆国独立の経済的背景についても、考察します。	小テスト⑤ 植民地経済について復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。
第27週：	

○第27回　産業革命（1） 　　イギリス産業革命の起因とその世界的意義を広く考察していきます。 今回は、世界で初めて、イギリスで産業革命が起こった理由と、その意義について考えます。	
第28週： ○第28回　産業革命（2） 　　イギリス産業革命の起因とその世界的意義を広く考察していきます。 今回は、イギリス産業革命の展開の様子について、考えます。また、産業革命が、世界に波及していく様子についても展望します。その2度にわたる世界大戦との関連なども考察します。	
第29週： ○第29回　産業革命と現代 産業革命と現代の大きな問題である資源・環境問題との関係について考えます。産業革命が弱い国ばかりでなく、自然をも搾取の対象としていったことを考えます。	小テスト⑥ 産業革命について復習する内容の記述式の問いを講義の最後に出します。時間を取り、講義の終わりに提出してもらいます。採点が終わり次第返却します（復習1h）。
第30週： ○第30回　エピローグ 今までの講義から学べたこと、とくに生きるための一番土台となるものについて振り返ります。	アンケート② 講義全体の振り返りを記述式で行います。時間を取り、講義の最後に提出してもらいます（復習1h）。
第31週：期末試験 　　**き** 中間レポート以降の内容を試験範囲とします。試験時間は80分で、論述式で出します。	**復習5h**

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①人間として一番大切なものを学び続ける姿勢を身に着ける。②①を通じて、社会人としての真の責任感や、倫理観を身に着ける。
【知識・理解】	①人間として一番大切なものを大切にする経済活動について理解し、経済学の基礎知識、専門知識を習得する。②①を通じて、現代社会の問題を発見し、解決することができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	①人間として一番大切なもののために生きることができるようになり、正しいプレゼンテーション能力
【思考・判断・創造】	①人間として一番大切なものについて深く考え、社会事象について正しい視点から考察できる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点	40点	10点	
【知識・理解】※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	5点			
【技能・表現・コミュニケーション】※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	5点			
【思考・判断・創造】※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	小テスト、ノート、アンケート、中間レポート [Sレベル]単位を修得するために到達すべき目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために到達すべき目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために到達すべき目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために到達すべき目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	